



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

盛夏回想

村上章

つれづれなるがままに、日暮し碗に向いての心境ではありませんが、忙中閑有りでしょうか。

一筆啓上仕ります。

今年の夏は、ことのほか暑さが厳しく真夏日が多かったです。皆様方には、屋外作業に従事されることが多くて非常に辛かった季節と拝察申し上げます。

くれぐれも御身、ご自愛下さいませ。

例年八月になりますとも思い出します、あの敗戦の八月十五日昭和天皇の詔勅であります。

あの中の言葉に、たえがたきをたえ万世の為に太平を開かんとおっしゃられました。

その昔十八条の憲法を定め大化の改新をなされた聖徳太子様は、和を以て貴とすと云われました。

私共の組合組織の運営も、私は常に和の心を以て運営し、事に当たるとは忘れてならないと自戒しています。

寛容の心、堪忍の気持ち、忍耐と克己心を養うことが大事なことかと存じます。

特に、同業者が集まった組織体の運営には、非常に難しいことが多くあります。

人と人のお付き合い、対人関係にも気を使わなければなりません。

意思・意見の対立は、各自にあると思いますが、小異を捨てて大同に着くの包容力を持って事に当たられますことを願っています。

昔庭学舎旧友忘難

星霜此虜五十有余年

往時想起感涙咽

我願諸兄益々伸展

エンドユーザーである国民のニーズに応える活力と創造力を 専門工事業イノベーション戦略

村上章

イノベーションとは革新

平成十二年七月当時の建設省が現状のままではすべての業者が生き残ることは不可能であり、元請け下請けを問わず厳しいコストダウンの圧力の中にさらされる。建設生産の七割を外注の中で、建設生産のプロセスの中核は専門工事業業者である。

このようなことから専門工事業業者の経営革新や将来戦略の道しるべとなるべく業種・規模にかかわらず経営革新の意欲を有するすべての専門工事業業者を対象に展開している。

一部の専門工事業業者には、経営革新、新分野進出、さらには連携などを通じた競争力強化の動きがあり、依存体質から脱却して自立した企業を

目指す自己改革の努力により、これからの厳しい市場環境に耐え得る専門工事業業者が必要である。なお、最近顕著となっている品質の確保や労働に支障となるような安値受注は建設産業全体の疲弊につながるものであることを認識すべきである。

これまで、公共工事の一部を除き一括請負契約が主で

あったが、発注者を取り巻く経済環境が激変し、コスト意識が高まる中で専門工事業業者の技術力の上昇もあり、分離発注やCM方式などへのニーズも発生している。

従来の一括請負方式以外に下請けであった専門工事業業者が何らかの形で元請けとして受注できる方式など、受発注の新たな仕組みを作り、努力し、伸びようとする技術と経営に優れた専門工事業業者にとって、活躍の場を増やす大きなビジネスチャンスである。

分離発注については一件の建設工事を一括請負でなく直接専門工事業業者を元請けとして発注する方式で、コストの削減効果や施工管理の効率性を明確にすることににより発注者がより選択しやすいう環境を作っていくことが必要である。

またCM方式とは発注者の代理人あるいは補助者として発注者の利益を確保する立場から品質管理、工程管理、費用管理を行う方式でコスト構成の透明化等による元請け下請け関係の合理化、専門工事業業者の技術提案能力がより生かされるなどのメリットがある。

競争力強化には異業種連携も含めて多様な目的の連携、すなわち従来の業種区分を超えて周辺業種も取り込むことにより広範な事業を一括受注出来るようにしていくか、逆に得意分野に重点化を図り、ナンバーワン、オンリーワンを目指す選択肢もある。

経営力や施工力また競争力強化のための新たな組織のあり方も必要である。

下請け業者の世界では元請け・下請けの協力的な依存関係が強く、経営力・施工力の向上や、生産性向上のための「経営革新」のような取り組み、差別化への取り組みの経験が、概して希薄である競争力の強化、コストダウン及び差別化・高付加価値の推進では総合的な管理能力が必要であり、新工法の開発、品質の向上、提案力の強化などの差別化、高付加価値化による競争力の強化も必要である。

中小企業経営革新支援法の有効活用で技術、工法など研究開発も積極的に行うべきであり、元請けや消費者に専門工事業業者の、技術力、品質などを適正に提案できるシステムを確立も必要である。

それには、経営者の長期的展望や原価意識の徹底、企業発展のための創造性や意欲が不可欠であり海外からの建設市場への進出や海外からの資機材の調達によるコストダウンも視野に入れる必要がある。

人材育成では長期的には少子・高齢社会になり労働人口の減少などに伴い技能労働力の

競争力強化には異業種連携

も含めて多様な目的の連携、すなわち従来の業種区分を超えて周辺業種も取り込むことにより広範な事業を一括受注出来るようにしていくか、逆に得意分野に重点化を図り、ナンバーワン、オンリーワンを目指す選択肢もある。

今後の弱含みの市場において大きく成長するためには、積極的に新聞や、業際分野への進出も検討する必要がある環境、福祉、リフォーム、メンテナンス、リサイクル分野などと専門工事業業者にとっても様々なビジネスチャンスが可能である。特にリフォーム・メンテナンス市場はその将来性から、様々な産業の参入が見込まれてリフォームの「戦国時代」を専門工事業業者が生き残れるか否かは市場の消費者の信頼を得られるかどうかにかかっている。消費者が安心できる施工の確保（責任施工の確立）施工後の安心できる体制作り（アフターサービスの確保）が課題である。

業界団体は伸びようとする会員を助ける役割を重点に主導的役割を持たなければならぬ。

人材育成では長期的には少子・高齢社会になり労働人口の減少などに伴い技能労働力の

2頁へつづく

1頁のつづき
の逼迫が生じ技術・技能の継承が困難になる可能性があり、基幹技能者や多能工に対する企業経営上の位置づけや処遇

全国労働衛生週間

訪る



「自分で

チェック!

私の健康

みんな

で

チェック!

働く環境」

10月1日▶7日 準備期間 9月1日▶30日
+ 全国労働衛生週間

全国労働衛生週間は、昭和二十五年に第一回が実施されて以来、本年度で第五十三回を迎える事となった。この間、本週間は、国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、さらに、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じた、労働者の健康の確保と快適な職場環境の形成に大きな役割を果たしてきたところである。

昨年の我が国の職業性疾病による被災者は七、九八四人と、十年前の約三分の二にまで減少したが、以前として腰痛等の負傷に起因する疾病や、じん肺症等の職業性疾病は後を絶たず、有機溶剤中毒、一

のあり方、社会的評価体制のあり方などを検討する必要がある。優れた技術・技能を顕るため技術・技能を解析した

酸化炭素中毒、酸素欠乏症等の災害も繰り返し発生している状況にある。

一方、最近に於ける産業構造の変化、高齢化の進展等労働者を取り巻く環境の変化の中で、一般健康診断の結果、脳、心疾患につながる所見を有し、心疾患につながる所見を有する労働者が四割を超えたと共に、現下の厳しい経済情勢の中で、仕事や職場生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合が年々増加しているところである。

このような状況に対応するため、過重労働によるメンタルヘルス対策など、労働者の健康の確保するための施策を推進しているところである。

然るに、業界に籍を有する会員にあっては、安全衛生法の趣旨に充分な理解を示しているも、一部の会員にあっては(即ち一人親方など)に該当する)積極性に乏しく懸念され

が、反面一定規模の事業者には、元請けの要請に基づき、徹底した安全衛生教育を受講済みにて、非常に社会的に

上で得られた情報のデータベース化、マニュアル化等が必要である。以上「イノベーション戦略」について抜粋で記述した。

評価され、安心して事業の依頼が可能との称賛も得ているが、然し今一度それぞれの立場で再点検を実施し、特に健康管理態勢に重点を注ぎ、年一回の健康診断を必ず受診させ、医師の所見の結果によつては、それなりの対応が求められる、特に高齢者への配慮にも気配りなどを考え、状況によつては配置転換等にも考慮し、働き易い職場環境の整備と更に拡大し、安全装備の再点検にも重点を置き、眼鏡・マスク・換気・採光・照明などの設備を充実させ保守管理体制の確立と、安全衛生教育の推進を図ると共に、自主的な活動を通じ安全と健康管理を維持する事が、事業者にとつて重要な課題ではなからうか、今回の衛生週間は糧として大いに活動を期待する。

ご安全に

K・N



全国板金業国民健康保険組合 平成13年度事業報告

平成13年度は、医療保険制度抜本改革議論の激しい応酬の中で、介護保険制度2年目の年としてスタートした。

当組合は、長引く不況下で減少を続ける被保険者数に対処するため、長年の懸案であった若年層の保険料軽減を決議し、25才未満の従業員組合員(特2種組合員)の保険料を、月額1万円(2、800円の引き下げ)とすることと踏み切った。

これにより、被保険者数の減少は、昨年とほぼ同じ△1、196人となったものの、この特2種組合員は、本年度内に117人の増加(加入335人、脱退△218人)を示しており、政策的に一応の評価が出来る内容となっているように思われる。

一般被保険者の医療費は、昨年大きく伸びて心配された入院(11年度比75%アップ、1人当たり費用月額平均4、499円)が一応の終息を見せ、12年度比では△1.38%(1人当たり費用月額平均4、37円)に納まり、全体で1.76%というまずまずの数値となったが、年度末の3月は1人当たり対前年比で、5.6%と予想以上に大きく跳ね上がり、つづく平成14年度の動きに多少の不安を感じさせている。

また、老人医療費は、介護保険2年目の年でもあり、介護保険への移行はある程度進んだと思われ、昨年とは逆に若干の上昇(老人医療給付1人当たり対前年比2.71%アップ)に転じた。

一方、保険者としての重要な事業のひとつである保険事業では、集団検診の助成、無料のがん郵送検査の実施等、継続的に行ってきたが、特に大腸がん郵送検査では、本年も5人の早期がんが発見される等、結果的に医療費削減につながる大きな成果をあげることができた。

また、国の強い指導により取り組んでいるレセプト点検調査事務については、昨年度ほどの実績が上げられず伸び悩みの状況となったが、レセプト点検委託先との点検内容の見直しを行う等、改めて費

用対効果上がるよう努めているところである。

事務の効率化、組合員サービスの向上等のための、支店のオンライン事務化については、本年度に3支店が加わり、計10支店で稼働している。保険証を支店で作成し直ちに発行することによる組合員サービスの向上を始め、今後も予想される保険料の細分化等への対応にも威力を発揮するものとして期待される場所がある。

不況下で苦しい経営を強いられている板金業界の実態を見据え、経費の削減面では、役員定数の削減(理事定数を17名から11名に、監事定数を3名から2名に)並びに職員数の削減(ベテラン職員3名の退職)及び職員給与の引き下げ(平均4%カット)を断行し、事業継続のぎりぎりまでの努力を行ってきた。

以上のように平成13年度の事業推進に鋭意努力してきたが、誠に残念ながら保険料収入では、発足以来初めての収入未済額(10、564、700円)が生じる結果となってしまった。長引く不況によって保険料支払いに困窮する状況もあるであろうが、同業者

に負担をかける結果となることは、なんとしても避けるべきことである。経理処理上は、平成14年度中に滞納繰越調定を行い、14年度中には完納させなくてはならないが、今後このような事態を迎えることのないよう、保険者としても辛い選択ではあるが、滞納者に対しては早目の厳しい対応が責務となろう。

以上による平成13年度の収支結果は、12月診療分以降の医療費の伸びもあって中間決

算見込みより、約5、000万円程の支出増となり、歳入歳出差引残高は、約2億7千6百万円余りとなった。

以上が当組合の平成13年度事業の主なところであるが、急速な少子高齢化による厳しい医療保険制度の運営の中で平成13年度事業をほぼ計画どおり終了することができたのは、全国の組合員を始め、関係者各位の暖かいご理解とご支援の賜物であり、深く感謝申し上げる次第である。

『支え合う 働くみんなの 労働保険』

労働者一人でも雇用する事業主のみなさんは

労働者一人でも雇用する事業主のみなさんは、労働保険（労災保険・雇用保険）に加入しなければなりません。

※労働保険は、労働者の方々が不慮の業務上災害・通勤災害を被った場合、失業した場合、高齢者で賃金が低下した場合、高齢者で働いている場合、育児休業及び介護休業の場合、自ら職業に関する教育訓練を受けた場合に給付を受けることができます。また、

労働保険

事業主のみなさんにも各種助成金の対象となる制度です。
*まだ、加入手続きをとられていない事業主のみなさんは、今すぐ加入手続きをしてください。

*相談先
最寄りの公共職業安定所
又は
労働基準監督署



外形標準課税導入断固反対（要望）

愛知県中小企業団体中央会

我が国の雇用創出や地域経済の活力の源泉である中小企業が将来に向けて積極的な事業展開を図り、その活力を維持・増進させ、我が国経済の礎となることができるよう、特に次記の事項の実現を強く要望する。

1、法人事業税への外形標準課税導入に断固反対

資金・資本金等を課税標準とする外形標準課税の導入は、雇用への悪影響があり、ひいては景気回復に冷水を浴びせる誤った考え方。赤字法人にまで増税して景気回復などできるはずがない。

2、消費税の免税点制度・簡易課税制度を維持・存続せよ

これら制度は、消費税発足当初から中小企業の複雑な手間を軽減するための合理的の制度。免税点制度が「益税」になっているというのは誤った認識。簡易課税制度も実態に合った適正なもの。制度を変える理由はない。

3、ペイオフ全面解禁を延期せよ

ペイオフ全面解禁が、中小企業への金融に悪影響を与えることがあってはならない。金融システムが安定していない現状での全面解禁は、リスクが高く、景気回復にも水を差す可能性あり。

4、政府系中小企業金融機関の改革論議を当面凍結せよ
中小企業の円滑な資金調達を実現するため、政府系中小企業金融機関の役割は大きく、改革論議は当面凍結すること。

第11回

ヨコヤマ会商品説明会

平成14年8月8日(木)豊田勤労福祉会館3階に於いて第11回のヨコヤマ会商品説明会が開催されました。参加者は22名、今回は旭化成建材の柳橋様を講師にお願いして「旭化成の外装材 パワーボード」を取り上げました。

パワーボードは木造専用の厚さ37ミリのALC（軽量気泡コンクリート）で上市されて25年になるそうです。住宅外装材の窯業系サイディングの需要が減少しているとき建築板金店があつかう新商品としてパワーボードに目をむけ

た訳です。関東では外壁材として多く使用されているとのこと。パワーボードのサイズは606×1820で1枚の重さは22kgです。トパモライト結晶手を形成したパネルであるパワーボードは反り・たわみ等の変形が起りにくい・遮音性に優れている・防火性に優れているので火災保険料が安くなる等の特徴があります。ただ以下の様な場所では使用禁止となります。

- 1、酸の出る建物
- 2、常時水のかかる場所
- 3、常時50℃以上の熱の出る

4、目地消し、
タイル貼りは不可
また無塗装板であるので現場塗装が原則です。納期として1週間〜10日かかるのとこのこと。

岐阜県穂積町にある工場では毎月1会施工等の講習会を開催しているとのことです。
豊田 松井



ヨコヤマ会
旭化成建材 柳橋氏



リフォーム (その4)

今我々専門工業者は、その市場において「診断」という分野は、リフォームの入口として見逃すことはできないものである。

需要者はどこへ相談しどこへお願いしたらいいか不安が大きいです。

「診断」とは、一定の目的のために、建築物(躯体、仕上り、設備)の全体または一

部の現在の状態を定性的、定量的に調査、測定することにより、その程度を評価、判断して将来の影響を予測するとともに、必要な対策を立案すること。(社団法人建築・設備維持保全推進協会)

将来の維持保全計画の立案や計画の実施である。

つきに予備調査→本調査項目の採→調査診断報告書の作成→提出。契約内容と金額の

献血活動に参加

知多支部は恒例にならって去る七月二十四日(休)献血活動を催した。

までは地元の間屋(武豊屋様)には永年お世話になってお

年々提供者の減少に伴い、今回は採血車の都合もあり、武豊町・武豊町商工会などと協賛し、同町保健センターにて献血活動に参加した。献血担当役員である下郷氏、神谷氏の献身的な協力を敬意を表したい。提供者は十九名(内三名問屋様)との報告を受けた。昨年



▶アツッ:痛い一寸、我慢してね

目安内容としては、現状同等、現状以上、新製品、最上級(サンプル、カタログ等)、金額の目安は、組合で研修した価格の参考、材料価格表と工賃諸経費、積算資料ポケット版、その他チラシの収集。

建物の美観や機能に付帯工事を提案発展させる。追加請求は絶対しない。支払い条件や工期も契約内容です。損害保険等により瑕疵による損害補償は顧客からのぞまれている。

西 鈴木

り、採血者の減少に伴い会場を変更した次第で、重ねて厚くお礼を申し上げると共に、永遠にと知多支部の歴史に刻みこまれる事でしょう。

さて、少し献血について調べてみました。貴方が献血した一部は、検査を行うために日本全国何処で献血しても、日本の三ヶ所、北海道千歳・東京・京都福知山に輸送されます。血液の中で七十四時間しか使用出来ない成分があるから二十四時間体制で検査されています。尚、この検査体制は世界の中で日本が先駆けて行っています。

現在四〇〇ml献血が主流になっていますが、次の様な理

由があります。四〇〇ml献血は、二〇〇ml献血に比べ輸血の必要量を半分の人数で賄えるため、輸血による副作用や感染症などの起こる可能性が少なくなり、より安全性を高めることが出来るそうです。今後も継続して献血活動を実施して行きましょう。

皆さん「健康第一」
ご自愛あれ
知多 岡戸

8月各支部の動き

- 東北支部 12日 定例会 8名
- 昭和支部 9日 例会 14名
 - ・ 職長・安全衛生責任者教育講習会の案内
 - ・ 秋の支部研修旅行について
- 熱田南支部 8日 定例会
- 中川港支部 24日 ビールパーティ 14名
- 尾張板金連合会 28日 役員会
- 一宮支部 20日 青年部定例会 16名

- 瀬戸支部 24日 定例会 10名
 - ・ 尾張連合会ボーリング大会参加者募集
- 津島支部 5日 定例会 12名
- 岩倉支部 12日 月例会
- 西三板金連合会 18、29日 青年部成人訓練 15名
 - ・ 真鍮製の茶筒製作
- 28日 三役会議 12名
 - ・ 11月の総会準備
 - ・ 次期役員人事
- 碧南支部 24日 青年部ソフトボール大会 25名
- 豊田支部 25日 支部四役会 6名
- 知多支部 1日 役員会 34名
 - 9日 青年部役員会
- 東三支部 3日 定例会 25名
 - 23日 役員会 5名
 - 26日 青年部定例会 7名



「矛盾」最近昼間でもヘッドライトを点灯して走行している車を見かける。以前は二輪車バイクの点灯はよく見かけている、これは他の人や車に運転試験場でも進められた。このことが事故の減少に役立っていることからタクシ業界に広まり一部大手タクシー会社が導入に踏み切った。

地球温暖化や省エネ対策や環境社会がやましく言われて来ている現在ヘッドライトを点灯することによりエンジンは高回転になりガソリン消費は多くなり環境社会とは逆行するのではないかと思う。事故を減らすためには已むを得ないのかもしれない。

建設現場でも依然として災害が減らないのが現状で、最近小さな現場や工務店でも安全に対する指導がとてま厳しくなり、書類提出をやましくり言われて、厳しくなるばかりである。反面、施工金額は値下がりするばかりで利益率は厳しくなるばかりである。健全経営で、怪我のない明るい職場であらいたい。

八月二十八日(休) 曇
三七五号 編集委員会
広報委員 7名出席
午後五時 終了

編集後記

驚見